

平成七年 全国大会式次第

平成七年十月二十五日(水)／於… ホテルオーネ神戸『星雲の間』

平成七年 全国大会式次第		平成七年十月一十五日(水)／於・ホテルオークラ神戸『星雲の間』	
司会進行役	金子 事務局担当	横田 幹事長	鈴木 会長
一、開会の辞			
一、会長挨拶			
一、会務報告			
一、特別公演			
(株)神戸製鋼所 震災復興推進本部			
岩 石	松 下 幹 事	加 地 彦 太 郎	藤 田 幹 事
石	異 様	彦 太 郎	幹 事
一、乾杯			
一、スピーチ			
一、万歳三唱			
一、閉会の辞			
宴			

阪神大震災と辰巳会

校日記

時に平成七年一月十七日未明に起きた阪神大震災では、死者六千三百人に達し、四十万戸に及ぶ全半壊家屋と云う大災害となりました。当 日は辰巳会本部の新年会が正午から東明閣で開催される事となつて居り、当然会は流れたのですが、会場の東明閣のあつた明海ビルも全壊で、もし会合の時間帯に地震が起つて居たらどんな事になつて居たかと想像するとぞつと致します。

阪神地区は辰巳会々員及びその御家族が多くお住いの場所ですので、その安否が気づかわれたのですが、幸い死傷の報はなく安心致しました。御住いの家屋には多数の全半壊がありました模様で、何かと御不自由御苦労が多い事と存じ、心から御見舞申し上げます。一日も早く震災前の生活を再建されるようお祈り申し上げる次第です。尚鈴木会長の御宅も全壊でしたが、既に再築されました。

祥龍寺境内の辰巳会の顯彰碑等も一部倒れたり動いたりしたのです
が、会員や関係企業の御支援を得て昨年秋には復旧を終りました。

所、日本精化、鈴木薄荷、日塩、ニチリンの六社ですが、何と云つても最も大きな被害のありましたのは神戸製鋼所がありました。その被害と復旧のお話は、昨年の辰巳会総会で同社震災復興、推進本部の岩石異氏にお伺いしたのですが、全社一丸となつて高炉の復旧にあたられ四月には火入の運びとなり、その他の設備工場等も次々と操業を開始され、一千億円を超える被害にもかかわらず、平成七年度の決算では

平成七年 全国大会出席者名簿 (順不同・敬称略)

平成七年十月二十五日(水) / 於・ホテルオークラ神戸『星雲の間』

祥龍寺供養塔等の被災と復旧について

柳田辰巳

平成七年度辰巳会新年例会（午前十一時三十分於・東明閣）の行わられる予定の日の午前五時四十六分突然起つた兵庫県南部地震はマグニチュード七・一、史上初の地震七を記録し、死者六千二百八十四名（平成七年末日、神戸新聞社調査）という未曾有の災害をもたらしました。

祥龍寺に百mと離れぬ小生宅もドーンと突き上げる様な揺れに驚き隣の部屋を透かして見ると（まだ薄暗かった為）、ガラスの破片（蛍光灯の落下、飾り戸棚よりの食器転落によるもの）が部屋一杯飛んでるのを見ました。そこで先ずスリッパを履き二階のベランダより南方を見ると一筋の黒煙が上つてました。

それが午前十時頃再び見た時は三筋の煙となり、JR六甲道駅かその西側で火災が発生している事を察知出来ました。

祥龍寺の道を挟んで北側の崖は五助橋断層なのですが、幸いこの地震では動く事なく他の断層の動きによる地震波のみの被害に止まつたのは幸いでした。それでも祥龍寺の被害は概ね次の様な状況です。

一、山門の大扉一枚、上下動により蝶番^{チヨウバンガイ}が外れ下に横たわりました。

二、本堂北側及び西側の瓦が崩落しました。

三、本堂内外の壁が剥離しました。

四、離れた南部分の瓦約三分の一が崩壊しました。

この様な環境下に伝聞して井戸（管応峰現住職が八年前に設けられ

た）水を求める人々が日に日に増し、一時は門前市を成す有様でした。（約半月続きました）

一方各地（地元のみならず西宮方面からも）より運び込まれる何も着せられない遺体、ふとんにくるまれた遺体、毛布一枚にくるまれた遺体は約四十体にも達し、本堂のみならず一時地蔵堂にも安置され、検死官及び遺族が一週間程も寝泊りする有様でした。

さて表題の祥龍寺供養塔等の被害ですが、製作年順（同日の場合は没順）にて列記致します。

一、鈴木よね女史像（昭和二年五月建立）

円形雪見灯籠一基倒壊転落し破損しました。

銅像下の竿石と台石及び自然石の敷石いすれもセメント剥離し、敷石の一部は動く状態となっていました。

二、柳田富士松翁頌徳碑（昭和二十三年十二月建立）

竿石は略中心を軸に向つて右は右後方に、向つて左は左前方に約三十度水平にずれました。

三、金子直吉翁頌徳碑（昭和二十三年十二月建立）

竿石は向つて斜め後方に転倒し、北西側の玉垣及び鉄柵を破壊しました。

四、辰巳会物故者供養塔（昭和四十三年四月建立）

供養塔空輪（最上部）が転落し、前部にある水差石の前部に当り破壊した後東側に横転しました。

供養塔笠石（上から二番目）は約四十五度水平にずれました。前部水差石は約10cm欠け、黒御影石表面の色と違った異色が露し出しています。

又供養塔に一番近い（北側）の敷石が一枚割れました。

